

令和4年度第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和4年7月7日（木）9:30～11:35

場所：土佐市複合文化施設つな一で 3階 大会議室

出席：委員23名中、21名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

（3）産業成長戦略について

1）移住促進・空き家対策の取組について

2）関西・高知経済連携強化戦略の取組について

3）連続テレビ小説「らんまん」を生かした博覧会の推進について

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

意見交換等、特になし。

（3）産業成長戦略について

1）移住促進・空き家対策の取組について

2）関西・高知経済連携強化戦略の取組について

3）連続テレビ小説「らんまん」（以下「らんまん」）と記載を生かした博覧会の推進について

（小田委員）

「らんまん」が始まることについて、単に高知県観光の起爆剤にするという考え方ではなく、関西の戦略や移住促進など、多方面に生かすべきだと思っている。県においても、もっと広い視野で横断的にどう生かすのか、財源も含めて考えていただき、市町村自身もそれに連携して取り組んでいきたい。

（地域観光課 別府課長）

「らんまん」の決定は非常に嬉しいニュースである。

県でも副部長級で庁内のプロジェクトチームを立ち上げており、観光だけでなく各分野で「らんまん」を施策に生かしていく取組を進めている。この良いニュースを、地域はもちろん、県の

あらゆる分野でプラスに生かせるように、経済効果が出せるように取組を進めていきたいと思っている。引き続き連携した取組をお願いしたい。

(大原委員・仁淀)

町内には草花に特化したガイドが少ないため養成をしたいと考えている。県内にある草花観光ガイドを町のガイド育成の講師に派遣することは可能か。

また、博覧会受入環境等整備支援事業補助金や土佐の草花活用支援事業などの支援策はどのような事業を予定しているのか。

(地域観光課 別府課長)

草花体感フィールドを楽しんでもらうためには草花ガイドの力が必要。県でも草花ガイドの養成講座を開催しており、市町村からも補助事業で、ガイドの養成の要望をしてくれているところもある。

ガイドの育成では県の養成講座に参加いただいたり、県のアドバイザーの派遣といった支援も考えられるため、個別に相談をいただきたい。

また、6月補正予算で創設した博覧会受入環境等整備支援事業補助金の活用予定は、越知町では横倉山自然の森博物館から横倉山への誘導や横倉山の案内看板、トイレの改修の要望が出てきている。仁淀川町は、鳥形山の整備要望をいただいている。

(大原委員・仁淀)

自然体感フィールドに記載があるひょうたん桜は、以前からトイレの改修要望があるため、そのことも検討いただきたい。

(地域観光課 別府課長)

一旦要望を締め切っているが、追加要望についても検討したい。

(中山委員)

「らんまん」に関連して、佐川町の旧通りはバスを止める場所が周辺に少なく、大型バスが入りに苦労しているのを目にした。支援策の中で駐車場の整備は入っているか。地域住民や利用者の危険がないよう、対策がとられているか。

(片岡委員)

バス駐車場は四国銀行横に整備を進めている。他にも役場に止められるようにしているが、牧野公園まで歩く必要がある。トイレも整備をするようにしているが、町だけでは厳しいこともあり、県の補助率を上げていただきたい。町民からも様々なご意見をいただいております、大規模に整備しなければならないが町財政は苦しい面がある。

駐車場整備の他には、シャトルバスの運行や佐川駅の整備もするよう6月補正で予算を確保したところ。他にも必要なことがあるため、県に追加要望をしたいと考えている。

(地域観光課 別府課長)

牧野公園周辺は、道が狭いという課題がある。

桜座の方に駐車場を構え、そこからバスを出すことや佐川町・越知町と連動してバスをどう運行すれば良いかといったことも含めて検討させていただきたいと思っている。

(板原座長)

資料3の1右下の第4期の産業振興計画における令和4年度の移住の目標、1,225組の設定根拠はなにか。

資料4 関西・高知経済連携強化戦略の関係。コロナ禍で、県産品の販売が厳しい状態にある。高知県産ショウガの価格はキロ当たり800円で何とか採算がとれるというのが相場だが、現在は650円と価格が低迷している。関西だけではなく、関東・外国を含めた消費にもお力をいただきたいということを、一昨日知事との意見交換会において土佐市から知事に提言したところ。関西は特につながりもあるため、売り込み等々、積極的にやっていきたいと思う。

(移住促進課 尾木チーフ)

移住の目標としては、第4期産業振興計画で令和5年度に1,300組の目標を設定している。目標達成のため、毎年、前年度に決めているが、第3期産業振興計画の目標値である令和元年度1,000組から令和5年度1,300組の4年間で300になるため、結果として300を4で割った形になって、令和4年度は1,225組となっている。

(産業振興推進部 岡田副部長兼関西戦略推進監)

関西では関西土佐会という、高知を応援してくれている卸商社のグループがあり、そういったグループの方々とのネットワークを強化して卸を通じて量販店の方への販路拡大に取り組んでいる。その中でショウガの取り扱いについてもお声掛けさせていただければと思っている。

農業、水産は取り扱い量販店も増えており、コロナ禍の中でも売上が前年に比べると増えている。関西のみならず、全国、海外も含めて、地産外商に取り組んでいきたい。

(池田委員)

先日、藻谷浩介氏の研修があり、日本でのコロナの拡大は決してインバウンドだけが原因ではないというデータを見せていただいた。外国の方たちがコロナを拡大させているという違うイメージを持っているということが数字で分かったが、高知県はインバウンドについて、今後どのように考えているのか聞きたい。

(地域観光課 別府課長)

高知県の今後の観光を考えたときに、インバウンドは重要だと思っている。

インバウンドが一番最初に入ってくるのは、関西空港などの主要空港なので、そこからいかに高知県に呼び込んでくるかということを進めていきたいと考えている。

現在、国際観光課でインバウンドの再開に向けて国別の戦略も作成中で、準備を進めている。

(小田委員)

人が来る機会を捉えて地域にお金を落としてもらおうというムードを醸成することが大事。

県や流域をあげてというときには、どうしても地域の力が必要。越知町は若い方が商工会長に就任し、非常に期待している。

(板原座長)

せっかく各分野から委員においでいただいているので、困っていることでも構わないので、皆さんのご意見をいただきたい。

(大原委員・佐川)

NHKの朝ドラは年2回で100年たっても200回しかない。1700ある市町村の中で、今後、佐川が朝ドラのテーマになることは、孫、ひ孫の代までないかもしれない千載一遇のチャンスだと思っている。ぜひとも佐川、越知でロケをやっていただきたい。例えば、物見岩や金峰神社で主演の2人に座っていただいたり、佐川小学校にある牧野富太郎の銅像のところからオープニングが始まるなど、聖地巡礼のためにも必ず作っていただきたい。

(大原委員・仁淀)

その際にはひょうたん桜にも立ち寄ってもらいたい。

(大原委員・佐川)

ひょうたん桜も当然です。

(松木委員)

牧野先生が植物を採集し標本作る際に、おそらくいの町の土佐和紙を使ったのではないか思うが定かではない。仮に、土佐和紙を使ったとすれば、いの町としてはかなりのアピールになる。そういった情報を調べて分かる範囲で教えてもらえたら活動の参考になる。現在、仁淀川橋の改修が行われているが、完成すると立派な橋になるので、その橋を歩いて牧野先生が土佐和紙を買いにきたというような物語を作りたいと思っている。

(柿本委員)

漁業の関係では、新聞にも載っていたとおり年末年始に獲れるはずのウルメが、全く獲れていない。最近はカツオばかり獲れていて、魚価が暴落している。加えて燃料代が高騰しており、漁師は沖へ漁に行っても、燃料代もペイできないという状況になっている。

(小川氏(金子委員代理))

空き家活用について、土佐市商工会では毎年、空き家と商店街の調査している。また、商店街の活性化で、土佐市からドラゴン広場の指定管理も受けている。

空き家調査では経年変化を見るため、本年度からはデータ化するようにしている。商工会の会員や会員外の方に、空き家を活用してもらおうことで商店街の活性化を進めたいと考えており、県

とも協議をしながら、少しでも空き家が減るよう取り組んでいきたい。

(山本委員)

林業関係で一番問題になっているのが人材不足。仁淀川町の、林業育成事業で森林組合では毎年1名～2名の雇用をしているが離脱者もおり総数が増えていない。県の方でも人材育成の補助事業が始まったようだが、田舎に人材を呼び込むもう少し強力なバックアップをいただきたい。雇用者について現状では、関西圏の方が多いが、関東、東北の方からも来ていただければありがたい。

また、森林組合の組合員は林業が盛んだった頃になっていただいた方がほとんどで高齢化しており、林業から退かれています方が多い状況。総会を開く際に必要な総代数が国で決められているが総代の確保が不可能になってきている。様々な機会を捉えて要望はしているが、県の方にもよろしく頼む。

(曾我委員)

林業の課題はほとんど山本委員が言ってくれたが、高知中央森林組合も人材不足で困っている。今日も昼から林業大学にプレゼンに行くがなかなか来てくれる人がいない。

(馬場委員)

農業はプラスチックなど資材が高騰しているが、値上がり分を販売価格に転嫁できないという難しい問題を抱えている。関西・関東含め、県人会などに世話になりながら営業をしているがコロナ禍で販売会や商談会にも参加できず積極的な展開ができずにいる。

また、今一番困っているのは肥料の高騰。6月には高いもので、8割強値が上がったものもある。加えて、化学肥料や原材料などはほとんどを外国からの輸入に頼っており、入手すら困難なものが出てきている。必要最小限の肥料の確保をいかにしていくかも課題になってきている。

(古味委員)

仁淀川町では博覧会受入環境等整備支援事業補助金で鳥形山の森林植物公園の整備、草花ガイドの要請、情報発信用のライブカメラ設置、昔の草花フィルムのデータ化を行う予定。牧野先生は仁淀川町の鳥形山や名野川にも来ているので「らんまん」の観光振興の中に加えてほしい。

(藤田氏 (戸梶委員代理))

日高村も「らんまん」に期待をしている。錦山公園はドウダンツツジの自生地、大正2年に佐川の吉永虎馬さんが発見され、牧野先生が「ドウダンツツジの自生地に間違いない」とおっしゃられたことが日高村と牧野先生の接点。日高村は蛇紋岩地や石灰岩地、湿地があり植物が非常に豊富。こうした自然のものを活かしながら、フットパスにも取り組んでいるが、いかに豊かな自然を残していくかということが今後の課題。

人口が減っていく中で、環境を保全していくのはボランティアだけでは難しい。個人的にはたくさんの方に保全に関わっていただく取組が支援できる体制づくりが必要だと感じている。

(高橋委員)

越知町ではスノーピークキャンプフィールドに県内外から客が来ているが、その客が商店街へ流れてくれないというのが第一の問題。年々人口が減って商店街が廃れていくような状況になっている。商工会も体制が代わったので商工会から行政へ事業の提案をしたいと考えている。越知町でできないことは、県の方にも検討していただきたい。

また、商工会の建物が昭和40年くらいに建てたもので老朽化してきているため、建物の移転や新築の補助があれば助かる。

(田中委員)

日高村の人口を増やすため移住促進について考えている。日高村でも行き詰めの地域には空き家がたくさんあるが、自分たちでもたまに帰るのがやっとなという状況。国道沿いの人口を増やして、役場の裏の小学校で夏祭りをしていたときのような活気を取り戻したい思いがある。

新型コロナウイルスは、マスクをつけて感染対策をしたうえで行動すれば大丈夫だと思っており、そうしないと観光が衰退していくと思っている。

(濱田委員)

土佐和紙の原料である“楮”の生産者が高齢化しており、将来的にどのように確保するのか？問題となっている。今後は、林業関係者にも協力をお願いしたい。

(岡林委員)

「らんまん」の関係では、牧野先生が名を付けたテバコマンテマという花がある。今は寒風山の方で少しだけ見られる貴重な花となっている。他にも本川地区ではたくさんの草花があり、県内で一番高い手箱山もある。

また、6月に国の重要文化財になっている山中家住宅の屋根の吹き替えが完了し、これから売り出そうとしているところ。

(大山委員)

「らんまん」の関係は、さかわ観光協会は佐川町、県、仁淀ブルー観光協議会、流域各市町村の観光協会、市町村と一緒に取組を進めているところ。

特に、住民からさまざまな要望がある中で町とは連携しながら取り組んでいるので、町から県に上がっている要望は我々の要望でもあると理解いただきたい。

また、「らんまん」の観光振興では流域市町村の周遊を兼ねた動きにつながって行くように十分心がけて取り組んでいきたいと思っている。

観光協会の一番の役割は、お客を呼ぶこと。せっかく来たお客さんに、いかに地域でお金を使っていたかということについては、商工会や県の施策とも関わってくると思うので、一緒になってやっていきたい。

地域アクションプランでは既に長期の計画が立てられているが、コロナや資材価格の高騰は農業・漁業・林業等あらゆる分野に大きな影響を与えておりアクションプランの目標値にも影響が出てくる。そのあたりも配慮して、チェックしながらやっていただければと思う。

(所谷委員)

私は横倉山のガイドをしているが、今年の2月に吉田類の日本百名山というNHK総合の番組のロケに同行した。5月に放送の予定だったが、放送日は未定。「らんまん」が始まるまでに横倉山のことは、誰に聞かれても答えられるように委員の皆様にもぜひ一緒に登っていただきたい。

(板原座長)

様々な話があったが振興監にまとめて回答いただきたい。

(信吉地域産業振興監)

コロナ禍や物価高騰などの事業者への影響等についての話があった。一次産業はもちろん製造業も資材が高騰し、今までしてこなかった値上げをせざるを得ないというような声をたくさん伺っている。

地域アクションプランは来年度が最終年度であり、令和6年度からは、5期がスタートする。コロナ禍において大変な部分もあるがKPIの設定も工夫をし、皆さんと共に取り組んでいきたいと思っている。

(板原座長)

資材あるいは燃油高騰の問題については、国も強い危機感を持って取り組むこと期待している。選挙後の補正等国の動向も注視もしながら、各自治体、県とも連携を取って取組を進めていかなければならない。

それぞれ課題を出していただいたが、時間の関係で今日はここまでにさせていただきたい。各分野の方向性など含め、さらに精査をしていただき、次回に還元させていただければと思っている。

(閉会挨拶 信吉地域産業振興監)

本年度、仁淀川流域は「らんまん」に尽きる。佐川町商工会の大原会長から千載一遇のチャンスだと盛り上がっていた。板原市長からも流域の交流会議で「らんまん」を活かして流域6市町村で何かできないかという提案もいただいているところ。

先ほど中山委員さんから駐車場の整備など受入体制のご意見があったが、この流域は奥の方は特に道も狭い。といって道を広げたり駐車場をどんどん整備するのは自然環境にもつながり現実には難しいと考える。以前からこの流域は二次交通が課題になっていた。6市町村で「らんまん」のイベントをするのもいいが、一過性のことだけでなく、こういった機会を捉えて課題をひとつずつ解決していければいいと考えている。仁淀ブルー観光協議会とも連携して話し合いの場をつくりたいと考えている。

また、冒頭にも申し上げたが、地域アクションプランも第4期の3年目を迎えており、アクションプラン一つずつどうしていくか、方向性を考えていくことになる。軌道に乗っている取組は卒業・自立へ、実施主体の事情で事業継続が難しいものは削除していくことを考えている。スクラップするということはビルドが必要になってくる。新規の掘り起こしについて皆様方にはアイ

デアをいただきたいと考えているのでご協力をお願いします。

(以上)